

# 東北 VALUE SIGHT 山形



東沢地区協働のまちづくり推進会議  
東沢山村留学協力会長

佐々木 賢一 (ささき・けんいち)

1948年、山形県川西町生まれ。  
1969年宮城県農業短期大学を卒業後就農。1991年東沢山村留学協会を設立し、会長に就任。2007年に特別栽培米の生産販売を事業とする(株)東沢米翔を設立し、代表取締役就任。  
東沢地区協働のまちづくり推進会議運営委員、川西町議会議員。  
東沢地区協働のまちづくり推進会議  
〒999-0152 山形県東置賜郡川西町大字上奥田2391  
TEL・FAX 0238-42-6325

人口減少・高齢化という問題は、どの農村地域においても深刻な問題となっている。山形県川西町の東沢地区でも同様であるが、この地区では住民自らがその問題について考え、東京都町田市と山村留学による交流を始めた。交流を機に、地域経済を活性化させていこうと協働のまちづくりに力を入れている。

## 交流を核とした協働のまちづくりの推進

### 山村留学による地域づくり

山形県南部、置賜盆地の中央に位置する川西町は日本一のダリア園と、作家の故井上ひさし氏の故郷として知られている。東沢地区は町の南西部のなだらかな丘陵に囲まれた中山間地域である。

東沢で山村留学の話が浮上したのは昭和62年である。それまで毎年10人前後生まれていた子どもが2人だと分かったのがきっかけだった。地域の教育力をどうしようかという話し合いで浮上したのが山村留学だった。3年の準備期間を経て、地域全戸加入の山村留学協会を設立し、平成3年に夏休み期間中4泊5日で行われる短期留学を、翌4年から1年間を基本とする長期留学をスタートさせた。双方向の交流を目指し地域限定の募集とすることとし、ダリアの縁で交流があった東京都町田市の子どもの対象に、農家のホームステイで行っている。



おむすび権米衛の社員は毎年田植え、稲刈り研修に東沢地区を訪れ農家に民泊する。

長期留学にはいくつかの原則がある。まず町田市民であること、短期留学を経験していること、そして何よりも自ら行きたいという強い意志があること、の3点である。面接で留学生を決定しているが、特に本人の意志を大切にしている。

これまでの20年間に、短期留学は600人を超え、長期留学は41人を受け入れてきた。

この長年の交流から、町田市に「まちだ夢里の会」という留学生の保護者の会が組織され、農産物の直販や同窓会の運営に大きな力を発揮する等、東沢のサポーターとして活動している。

### 地区計画と協働のまちづくり推進会議

東沢では山村留学を契機に、平成8年に都市と農村の交流を柱とした10カ年の「東沢地域整備計画」を策定し、推進母体の地域づくり推進協議会により地域づくりの活動を進めてきた。

川西町では平成16年にまちづくり基本条例を制定し、協働によるまちづくりに取り組むことにした。東沢地区ではこれにあわせて、平成17年にいち早く地域運営母体を「協働のまちづくり推進会議」に改組し、5カ年を目標とする「東沢地区計画」を策定して、平成18年から本格的な地域づくりに取り組んでいる。同時に東沢地区の農業の振興、生産、販売企画を研究するシンクタンク「東沢夢里創造研究所」を設立し、推進会議と緊密な連携をとりながら活動している。この活動から株式会社東沢米翔、東沢夢工房、農事組合法人夢里、農産物直売所フレッシュ&Fresh、等の生産組織が産声を上げている。

### 交流を起点に農産物の販売

東沢の描いたプランの実践に大きな役割を果たしたのが「まちだ夢里の会」である。東沢地区の農業経営を支えようと、店舗開発コンサルタントをしていた会員の1人が、取引先のおにぎり専門店「おむすび権米衛」を展開する(株)イワイを紹介してくれた。(株)イワイのメンバーが数回東沢を訪問して、おむすび権米衛に東沢地区の米を販売するという契約が成立したのである。

おむすび権米衛は都内を中心に約30店舗をチェーン展開しており、おむすびを通じて日本農業に貢献しようという社是を掲げている。

(株)イワイの求める米は除草剤1回基準の特別栽培米である。山村留学の受け入れ農家や認定農業者で特別栽培米を生産販売する(株)東沢米翔を設立し、平成19年産米から取引が始まった。

東沢夢工房を組織する女性たちも外に向かって活動を始め、伝統の味噌漬けのほか、山菜の加工や惣菜に事業を拡大し、積極的にデパートやスーパー、銀座の山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」での販売を行って売り上げを伸ばしている。

### 大きな成果

協働のまちづくり推進会議では、地区計画の推進にあたって、毎年「主要事業の具体的な取り組み」を示し、年度末5段階による検証評価を行っている。そしてまた翌年の具体的な取り組みを定めるPDCAサイクルを実践している。

この5年間の主な活動は、シンクタンク夢里創造研究所の設置、自主防災会の設立、都市・消費者との交流(山村留学、教育旅行の受け入れ、紅大豆オーナー制、(株)イワイ社員の田植え、稲刈り体験)、NPO法人はーとサービス川西の設立(過疎地有償運送、福祉有償運送)、自然学習園の開設(湿地に木道整備、ハッチョウトンボの保護)、伝統文化の継承(東沢の昔の農作業と年中行事発刊、夢里のさとめぐり看板設置)等多岐にわたる。

これらの活動によって平成19~22年度に、第38回日本農業賞第5回食の架け橋賞優秀賞はじめ全国的な表彰を受賞している。いずれも山村留学の取り組みを地域づくりに発展させたことが高い評価を受けた。

平成23年から第2期地区計画がスタートする。人口減少と高齢化は全国どこでも深刻な問題となっている。計画には、この難局を切り抜けるために、①交流と人材育成、②農業振興と所得の拡大、③地域資源の活用と観光化、④安全・安心な暮らし、⑤新たな夢の里構想の5つを柱として掲げた。また新たな展開として、おむすび権米衛がアメリカ進出を計画しており、東沢米翔では今年から輸出のためのJAS認証有機米の栽培を行う。私たちにとって夢だった米の輸出が、いよいよ実現する。

「目標を掲げる、それを実現するための道筋を考える、そして必ず実行する」というのが私の考える地域づくりの鉄則である。これまでもそうであったように、これからも、交流を核とした地域づくりを進めていきたい。